

消化器検診 Newsletter

[日本消化器がん検診学会関東甲信越支部機関紙]

No.101

発行所: 日本消化器がん検診学会
関東甲信越支部
〒183-0042 東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都がん検診センター
消化器内科
TEL / 042-321-0711
E-mail: kantou@jsdcs-kanto.jp

関東甲信越支部運営幹事、監事のごあいさつ

新任のご挨拶

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部
支部運営幹事
小田 丈二

平成27年4月より、関東甲信越支部、支部運営幹事の任を拝命致しました、東京都がん検診センター消化器科の小田丈二と申します。40年余の歴史を持つ関東甲信越地方会から、日本消化器がん検診学会関東甲信越支部となり、大きな改革が必要になっております。しかしながら支部としては最大の組織であることに変わりなく、今後も精力的に活動を行っていく必要があります。さらに、検診を取り巻く環境は大きく変化しようとしており、時代の流れに合わせ、我々も大きな変革を遂げるべき時期に来ているのではと感じております。

日本の消化器がん検診の中心として大きな役割を担っていることを実感しながら、今後の活動を会員の皆様とともに考えていく必要があります。

入口支部長の元、新幹事としてどれだけお力添えできるか分かりませんが、今後の関東甲信越支部の発展に少しでもお役に立てるよう努力していくつもりです。

最後になりますが、がん検診に関わるすべての皆様だけでなく、受診者の皆様のためにも有益となるような活動を行っていけるよう、そしてこの関東甲信越支部がさらに発展していくことを祈念しながら新任のご挨拶とさせていただきます。

ご 挨拶

日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部
支部監事
川上 哲弘

今年度より支部監事に就かせていただいております神奈川県予防医学協会の川上哲弘です。

現在、「胃X線検査による胃がん検診」を取り巻く環境は、「逆風が吹いている」ともいわれるように、受診者の高齢化や受診者数の減少のほか、「バリウム検査以外のモダリティでの検診」など大きく変化しようとしています。

しかし、検査の主役である『受診者』側から見れば、胃がん検診に複数の選択肢があるということは「受診機会の増加」というプラスの要因となるのではないかととも思われます。

今後もバリウム検査が「受診者の利益」となるためには、すべての検診施設で『新・胃X線撮影法ガイドライン』および、『胃X線検査受診安全基準』を遵守し、さらに精度の高い、安全・安心なX線検査による胃がん検診を目指す必要があると思っております。

このような状況のなか、関東甲信越支部ひいては消化器がん検診において、多少なりとも貢献できればと思っております。

何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

目 次

「関東甲信越支部運営幹事、監事のごあいさつ」

小田 丈二	1
川上 哲弘	2
見本 真一	3
山口 和也	11
中島 寛隆	12

「Newsletter100号に寄せて」

依田 芳起	13
-------	----

第75回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会を終えて

依田 芳起	14
-------	----

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部

超音波研修委員会

超音波スクリーニング研修講演会2015有明	15
-----------------------	----

第8回ザ・ベストイメージングコンテスト結果	17
-----------------------	----

放射線研修委員会

第11回千葉県消化管画像づくり研究会	19
--------------------	----

編集後記 山口 和也	20
------------	----

10年後の胃がん検診を見据えて

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部

支部運営幹事

見本 真一

来年や来月、おそらくは来週の予定もおぼつかない自分にとって、10年後の胃がん検診を推測する事など、およそ不可能と思えます。しかし、胃がん検診としての大きな変革時期と思われる現状に対して、10年後にあるべき目標値を定めて協力し、行動し続けることが、すなわち10年後を創り出す事に成り得るかも知れません。その為には、10年前がどのようなであったかを考え、現在に至るまでの経緯を確認する事で、10年先の未来が多少予測し易くなります。

「新・胃X線撮影法（間接・直接）ガイドライン」が発行された2005年当時に、全国の撮影法がバラバラであった事を考えると、今から10年後には読影基準がほぼ浸透していても何ら不思議には思えません。むしろ標準化されていなければならないと感じます。つまり過去の認識とは、今後の活動目標を適正化する上で重要な参考要素であり、本年度より新体制に移行する放射線研修委員会にとって、まさに温故知新の姿勢が大切であると思えます。

放射線研修委員会の前身である放射線部会の歴史の中で、私が知り得る限りでの後世に語り継ぐべき内容として、1) 学術集会の歴史、2) 市川平三郎賞、3) レベルアップセミナー、そして4) 造影研修会が挙げられます。

学術集会は1972年に第1回が開催され、43年間継続されてきました(資料1参照)。永きにわたり放射線部会の活動にご尽力された諸先輩方に畏敬の念を抱くと同時に、時代とともに進化する胃X線検査の最先端を議論し続けてきた貴重な機会を、本年度は支部運営上の問題で開催出来なかった事が非常に残念であります。今後の10年あるいはそれ以降において、本学会として社会に貢献すべき活動を、内部の事情によって決して妨げてはならないとの認識を貫くべきであると考えます。

市川平三郎賞は、関東甲信越放射線部会独自の表彰制度であります。歴代受賞者の方々(資料2参照)は、非凡な才能の持ち主というより「胃X線検査に対して圧倒的な情熱をもって取り組まれた人達」との受賞理由が共通点ではないかと思えます。

レベルアップセミナーは、2007年より8年間で計32回(資料3参照)、その他読影勉強会、認定技師講習会と合わせ計42回開催されました。少人数制でのグループリーディングや積極的な都外開催による各地放射線技師会や消化器研究会との合同開催など、初級者を対象とした基準撮影法の普及や読影の補助の基盤整備を主な目的とし、胃がん検診専門技師の取得者増加や事後教育に貢献しました。32回での総受講者数は2114名、内非会員は41.1%にあたる872名、また、受講者の平均経験年数6.1年と、まさに初級者から中級者が受講中心でした。結果、関東甲信越地方

会における放射線技師会員数としては、胃がん検診専門技師制度を開始した2001年には708名でしたが、レベルアップセミナーの開始に伴い2007年時点の942名から2012年には全会員数の77%にあたる1432名に増加しました。(資料4参照)

造影研修会は、1987年から開始し2014年度の第37回をもって、一旦終止符となりました。(資料5参照) 全国レベルでの消化器がん検診プロフェッショナルを養成する場として、合宿制による検診現場での情報交換を含めた教育環境を提供して参りました。これは提唱者である市川平三郎先生の意志を、我々放射線技師が時代変化を包括しているとも言えるスタイルで固持継続してきた事に由来します。近年、やはり支部運用規定にそぐわないとの理由で、その継続が困難となり次世代的な改善が求められております。しかし、現在の胃がん検診での中心的人材のほぼ全てが本研修会卒業生でもあり、後継者育成における重要な事業である事は否定出来ません。

総じて、放射線部会の活動を振り返ると、「教育環境の提供」ではなく、「関心を高める共有スペースづくり」であったかと思えます。しかしそれらは先人達が築き上げた業績であり今後10年の目標では無い為、我々に課せられる命題は、過去を基盤に新たな消化器がん検診の将来像を構築する事に他ならないと感じます。その為には、本学会の理念を理解し支援しうる人材の育成と、現代の英知を集約した検診システムの検討が肝要と思われ、新規体制の下、画期的な事業活動を展開していきたい所存であります。

資料 1

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部放射線研修委員会学術集会 開催一覧

(旧: 日本消化器がん集団検診学会関東甲信越地方会放射線部会学術集会)

	大会長	勤務先名	開催日	開催場所
第1回	本村 行俊	国立がんセンター	1972年10月21日	富士フィルム大講堂
第2回	鶴田 重彦	癌研究会付属病院	1973年 6月16日	富士フィルム大講堂
第3回	岡本 武正	東京都がん検診センター	1973年11月10日	富士フィルム大講堂
第4回	村西 久幸	神奈川県成人病センター	1974年 6月 8日	富士フィルム大講堂
第5回	大塚 正次郎	春日部市立病院	1974年11月 9日	全共連ビル
第6回	斎藤 旭久	国立がんセンター	1975年 6月21日	富士フィルム大講堂
第7回	毛利 快晴	千葉県がんセンター	1975年11月15日	船橋市西部公民館
第8回	深堀 一	早期胃がん検診協会	1976年 6月 5日	富士フィルム大講堂
第9回	上野 武	栃木県がん検診センター	1976年11月 6日	宇都宮医師会館
第10回	海老根 精二	国立東京第二病院	1977年10月29日	富士フィルム大講堂
第11回	石川 敏三	安岡医師会病院	1978年11月18日	熊山市市民センター
第12回	中村 太郎	大宮市医師会市民病院	1979年11月17日	大宮市民会館
第13回	中島 肇	東京医科大学霞ヶ浦病院	1980年11月15日	東京医科大学霞ヶ浦病院講堂
第14回	萩原 明	神奈川県予防医学協会	1981年 9月12日	横浜市健康福祉総合センター
第15回	板井 徳市	群馬県対がん協会	1982年 9月 4、5日	伊香保町観光会館ホール
第16回	大塚 清孝	東京都がん検診センター	1983年 9月10日	富士フィルム大講堂
第17回	佐藤 忠	豊形義塾大学病院	1984年11月10日	豊形義塾大学北窓講堂
第18回	岡田 健	リハビリ生体院	1985年 9月14、15日	軽井沢中央公民館
第19回	上沢 進	栃木県がん検診センター	1986年11月29、30日	宇都宮市文化会館
第20回	山岸 忠好	安岡医師会病院	1987年10月31、11月 1日	熊山商工会館
第21回	飯塚 修	癌研究会付属病院	1988年10月15日	安田生命ホール
第22回	宮沢 武夫	山梨県健康管理事業団	1989年 9月 8日	山梨県民会館ホール
第23回	石渡 良徳	神奈川県労働衛生福祉協会	1990年 9月 8日	横浜市民文化会館
第24回	岡崎 実	国立がんセンター	1991年 9月28日	サンケイホール
第25回	藤田 良三	東京医科大学霞ヶ浦病院	1992年 9月28日	土浦京成ホテル
第26回	田辺 一夫	二市北湖原郡総合健康開発センター	1993年 9月11日	ホテルアクアピア新島
第27回	藤井 昭己	労働医学研究会	1994年10月15日	全電通労働会館
第28回	横田 浩雄	駿河台日本大学病院	1995年 9月30日	エーザイ本社
第29回	加藤 潔	群馬県健康づくり財団	1996年10月 5日	前橋市民文化会館
第30回	小沢 馨	栃木県立がんセンター	1997年11月 8日	ホテルフェアシティー
第31回	池島 豊	癌研究会付属病院	1998年11月14日	安田生命ホール
第32回	堤 直策	越谷市立病院	1999年10月16日	サンシティ越谷市民ホール
第33回	鈴木 隆夫	佐久総合病院	2000年10月 7日	特選ゴールデンセンチュリー
第34回	並木 良宣	日立メディカルセンター	2002年 3月 9日	茨城県総合福祉会館
第35回	竹野 敦馬	山梨県健康管理事業団	2003年 2月22日	ベルクラシック甲府
第36回	佐藤 安男	千葉県立東金病院	2004年 2月21日	千葉県総合保健医療センター
第37回	小野寺 礼子	代々木病院	2005年 1月29日	新島明治安田生命ホール
第38回	金子 亮己	新潟県労働衛生医学協会	2006年 1月28日	ホテルオークラ新島
第39回	青柳 孝行	横浜市長市民病院	2007年 2月17日	神奈川県立県民ホール
第40回	岡田 義和	埼玉県健康づくり事業団	2008年 2月23日	大宮ソニックシティ
第41回	高橋 清志	栃木県保健衛生事業団	2009年 2月21日	とちぎ健康の森
第42回	萩原 常夫	群馬県健康づくり財団	2010年 2月20日	群馬県立県民健康科学大学
第43回	佐藤 一雄	JA長野厚生連 佐久総合病院	2011年 2月19日	長野県佐久労働福祉センター
第44回	滝口 裕	千葉県衛生福祉協会	2012年 2月 4日	千葉市文化センター
第45回	見本 真一	神奈川県予防医学協会	2013年3月1日～2日	はまぎんホールヴィアマーレ
第46回	宮城 佳宏	がん研究会有明病院	2014年2月15日	タワーホール船堀
第47回	宮田 和則	魚沼地域医療連携協議会	2015年3月7日	ホテルニューオータニ長岡

資料2

市川賞歴代受賞者名簿

平成 2年度	1回	萩原常夫
平成 3年度	2回	桜井徳一、富沢俊男、新井敏子
平成 4年度	3回	宮沢武夫、竹野数馬
平成 5年度	4回	安達 博
平成 6年度	5回	石渡良徳、村西久幸、萩原 明
平成 7年度	6回	岩崎 茂
平成 8年度	7回	加藤博之、関本宏二
平成 9年度	8回	小野寺礼子
平成10年度	9回	菊池好子
平成11年度	10回	山岸忠好
平成12年度	11回	安掛武一
平成13年度	12回	北川まゆみ
平成14年度	13回	長谷川利次
平成15年度	14回	高橋清志
平成16年度	15回	都築史郎
平成17年度	16回	米倉福男
平成18年度	17回	藤田 昭
平成19年度		該当者なし
平成20年度	18回	工藤 泰
平成21年度	19回	宮田和則
平成22年度	20回	海老根精二、斉藤悠久
平成23年度	21回	奥田圭二
平成24年度	22回	大槻清孝、鶴田恭央、本田今朝男
平成25年度	23回	木村俊雄
平成26年度	24回	福岡良和、佐藤清二

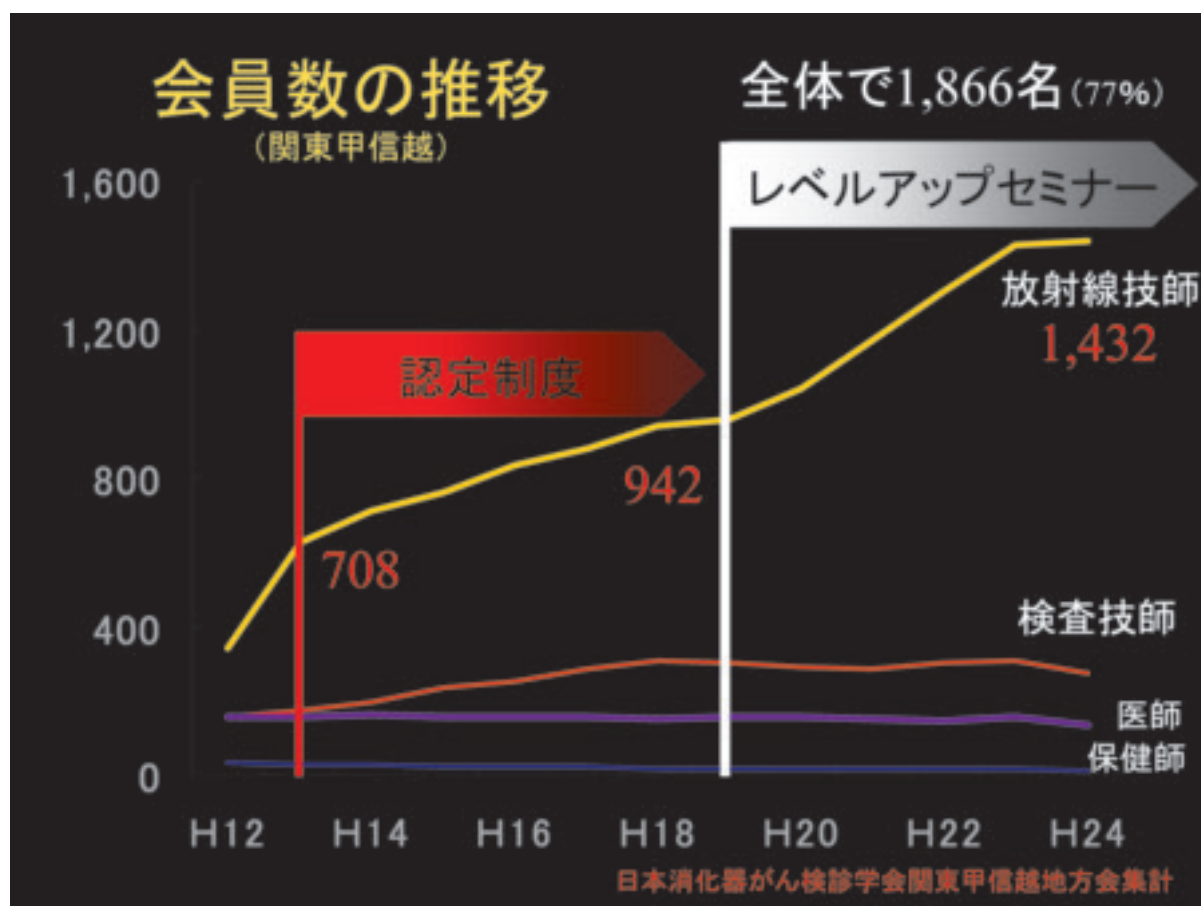
資料3

胃X線レベルアップセミナー開催状況

H26.10.1現在

年度	回数	開催日	会場	会員	非会員	合計	講師1	講師2	講師3	共催	部外
19	第1回	H19.7.26	国立がんセンター中央病院	64	34	98	吉田先生	稲父江先生			
	第2回	H19.12.8	島津製作所東京支社	73	51	124	中村(島津)	太田先生	吉田先生		
20	第3回	H20.5.17	社会保険中央病院	63	42	105	木村代表	浜田先生	加藤先生		
	第4回	H20.7.26	新潟ウエルネス(労働衛生医学協会)	76	18	94	木村代表	佐藤世話人	馬場先生	○	○
	第5回	H20.11.29	国立がんセンター中央病院	61	42	103	工藤世話人	富樫講師	吉田先生		
21	第6回	H21.5.30	日立メディコ本社(秋葉原)	64	56	120	工藤世話人	入口先生			
	第7回	H21.7.25	栗田病院(長野市)	36	35	71	工藤世話人	馬場先生		○	○
	第8回	H21.12.12	国立がんセンター中央病院	55	27	82	工藤世話人	吉田先生			
22	第9回	H22.5.22	社会保険中央病院	39	57	96	高田世話人	入口先生			
	第10回	H22.7.31	森ヶ浦医療センター	29	36	65	工藤世話人	馬場先生		○	○
	第11回	H22.12.11	国立がんセンター中央病院	51	31	82	松本世話人	吉田先生			
23	第12回	H23.5.14	東京都放射線技師会研修室	38	32	70	工藤世話人	入口先生		○	
	第13回	H23.6.4	東京都放射線技師会研修室	28	45	73	藤原世話人	入口先生		○	
	追加開催	H23.7.16	東京都放射線技師会研修室	11	20	31	藤原世話人	入口先生		○	
	第14回	H23.8.6	ニューオータニ長岡	30	9	39	松本世話人	吉田先生		○	○
	第15回	H23.12.17	埼玉赤十字病院	34	15	49	木村代表	吉田先生		○	○
	第16回	H24.3.10	東京都放射線技師会研修室	32	32	64	木村代表	馬場先生		○	
24	第17回	H24.4.26	東京都放射線技師会研修室	41	13	54	富樫聖子	入口先生		○	
	第18回	H24.6.23	東京都放射線技師会研修室	36	34	70	木村代表	宮田副代表	小田先生	○	
	第19回	H24.8.25	かながわ県民センター	80	55	135	宮田世話人	本田世話人	吉田先生	○	○
	第20回	H24.10.27	東京都放射線技師会研修室	30	11	41	工藤世話人	入口先生		○	
	第21回	H24.12.1	済生会宇都宮病院 2F グリーンホール	35	4	39	松本講師	馬場先生		○	○
	第22回	H25.2.9	山梨大学医学部講堂	26	7	33	富樫聖子	小田先生		○	○
25	第23回	H25.5.11	東京都放射線技師会研修室	35	37	72	工藤世話人	吉田先生		○	
	第24回	H25.6.15	東京都放射線技師会研修室	30	28	58	田中講師	小田先生		○	
	第25回	H25.8.24	ちば県民保健予防財団 講堂	37	24	61	佐藤世話人	山里先生		○	○
	第26回	H25.10.26	東京都放射線技師会研修室	0	0	0	木村世話人	入口先生		台風の為中止	
	第27回	H25.12.21	群馬県健康づくり財団	34	13	47	金子世話人	吉田先生		○	○
	第28回	H26.2.22	さいたま赤十字病院	18	8	26	村岡世話人	山里先生		○	○
H26	第29回	H26.6.21	東京都放射線技師会研修室	15	25	40	宮田代表	金子・和田	水谷先生	○	
	第30回	H26.7.19	東京都放射線技師会研修室	17	28	45	宮田代表	金子・和田	富野先生	○	
	第31回	H26.7.26	佐久総合病院佐久医療センター	24	3	27	宮田代表	木村世話人	山里先生	○	○
	第32回	H26.9.27	新潟ウエルネス(新潟県労働衛生医学協会)	51	9	60	富樫講師	山里先生		○	○
				1242	872	2114(非会員率41.2%)					24 13

資料4



消化管の診断に

処方せん医薬品

X線造影剤〈硫酸バリウム製剤〉

◇パウダー製剤

硫酸バリウム散 99.1%「共成」	バリトップHD
ネオバルギンEHD	バリブライトP
ネオバルギンUHD	バリブライトCL
ネオバルギンHD	バリコンクMX
	バリブライトLV

◇ソル製剤

バムスターS200	バリトップソル150
バリトップ120	バリブライトソル180

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

※注意—医師等の処方せんにより使用すること

発売元 **KAIGEN** カイゲンファーマ株式会社

大阪市中央区道修町二丁目5番14号〔資料請求先 商品企画部〕
<http://www.kaigen-pharma.co.jp>

※平成25年4月より株式会社カイゲンはカイゲンファーマ株式会社に社名変更いたしました。



第37回消化管造影技術研修会 受講後の感想

H27.1.30～2/1

このような研修会を他の人に薦めたいと思いますか？	薦めたい	53	薦めない	—
--------------------------	------	----	------	---

この研修会はためになりましたか？	なった	53	ならない	—
------------------	-----	----	------	---

受講者からの意見・感想

- ・分かりやすい説明でした。ありがとうございました。
- ・食道の撮影と症例が少ない。
- ・非常に有意義な3日間でした。
- ・講師の先生、技師の方々の胃がん検診の精度を上げたいという想いが、受講生とともにひとつになった研修会だったと思います。
この会に参加できて幸福でした。
- ・今回の研修会のように、まとまった勉強会は他にないので、ぜひ次回以降の再生を希望しております。ありがとうございました。
- ・委員の皆さん大変お疲れ様でした。
- ・大変参考になりました。
- ・次回からは形を（名前を）変えた「第1回」になりますね！？
- ・他の技師にも参加を強く、激しく勧めておきます。ありがとうございました。
- ・自由討論に参加させていただきましたが、講義ではあまり聞けないお話や、他の施設の方との情報交換が出来とても有意義でした。
- ・著名な先生方の講義を受けたり情報交換が出来る消化管造影技術研修会が今回で最後と聞いてとても残念に思います。
- ・消化管造影について詳しく3日間、集中的に学べて、今後の業務に役立つと思う。
- ・今回、初めての参加でしたが、どうして今まで参加しなかったんだろうと後悔する程、身になる素晴らしい研修会でした。
- ・ぜひ、違う形でも続けて頂きたいと切に願います。特に、今後の胃XP検診を絶やさないためにも。
- ・とても良い研修会でした。今年で終わってしまうのはさびしいです。
- ・とても充実した3日間でした。改めて技師の手技の大切さを感じました。
- ・積極的に研修会に参加しようとおもいました。
- ・今回はこの様な会に参加させていただきありがとうございました。
- ・3日通してとてもためになる講義ばかりで、本当に受講して良かったと思いました。
- ・交流会や自由討論では、普段疑問に思っていることを直接聴くことができ、とても助かりました。

・今回で、この会が無くなるというのは大変残念に思いますし、これからの後輩のためにもぜひ復活していただける様御願い申し上げます。

・初心者の私にとって、とても有意義なものとなりました。

・これから、精度の高い検診を目指し励んでいきたいと思ひます。ありがとうございました。

・胃透視検査は、はじめたばかりですが、わかりやすく有意義に過ごすことができました。

・今回で終了とのことですが、別の形でも良いので是非このような研修会を続けてほしいです。

・大変勉強、刺激になりました。ありがとうございました。

・基準撮影法が撮影法として良い事はわかるが、もう少しどのあたりを観察しているのかを聞きたかった。

手順どおりに撮れば撮れるが、順番もこのとおりに撮影する意味がもう少し説明してほしいです。

・37年前からこのような研修会が行われていたらしいのですが、私がこの研修会のことを知ったのは昨年です。もっと広くPRしてもらえたら良かったと思ひます。また、なぜ1年で最も寒いこの時期の開催なのかわかりません。コート、上着など持ち物が増え遠方からの参加者はたいへんだとおもひます。

・大変になる講義ありがとうございました。

・初心者にもベテランにも大変刺激になったと思ひます。できれば、続けて頂ければありがたいと思ひます。

・X線画像の読み方の講義が難しく、あまり理解することができなかったです。

・他の施設の方の写真を見ることができ、勉強になりました。

・とてもわかりやすい講義、初心者に一から噛み砕いたご説明ありがとうございました。

・今年で終わりという事で残念に思ひます。

・山里先生の講義では症例をたくさん見せていただき、楽しく学べました。

・吉田先生の講義では読み方を一から教えていただき、症例検討会での発表の仕方が理解できたように思ひます。

しかし、実際に自分でやってみるとむずかしいものだとして「初めての症例検討会」でおもひました。私にはまだまだ無理だと感じました。ちょっとビリビリしたムードになってしまいこわかったです。

・とても勉強になりました。撮影する意識が今後変わると思ひます。明日から頑張ります。

・病理や読影は深く勉強したことがなかったので難しかったです。

・バリウムの話は始めて聞く内容ばかりで勉強になりました。

・画像検討会では、自施設の問題点などがわかり良かったです。

・今まで参考書を見てもあまり理解出来なかったことが嘘のように分かるようになって本当に嬉しかったです。3日間どうもありがとうございました。

・胃部撮影の奥深さがよく認識でき、撮影がとてもおもしろくおもえます。出席できて本当に良かったです。

今後の技師生活を大きく変えることが出来た感じがします。今後の発展の為にこの研修会を続けて頂けます様御願いします。

・実行委員の皆様ありがとうございました。

・知識以上に技師として最も大事なことを学んだ。大変だと思いますが、後輩達の為にも是非第38回をお願い致します。

・持参画像検討会によって自施設、また自分の撮影の何処に問題があるのかがよくわかったと思います。

同様の持参での勉強会があればぜひ参加したいと思います。

・統計のがん発見率のケタが誤っていた気がします。

・日立さんの声が聞きとりづらいトーンで、しゃべりも早かったのでよく理解できなかったです。

・ハードでしたがとても有意義な3日間でした。

・技術はすぐには向上しないと思いますが、意識は明日からの業務で取り組んでいきたいと思っています。

・充実した3日間でした。ありがとうございました。

・教科書で読むだけだと理解しきれなかった部分を講師の方々が噛み砕いて教えて下さり、理解度がました。

・症例検討会では、未分化を表現する決まり文句？の様なものは知っていましたが、その根拠は？写真からどこを指すのか？と聞かれると言葉がでてこなかったのもので、とても詳しく教えて下さり勉強になりました。

・画像検討会では他の施設の撮り方や工夫、逆に撮影件数のノルマがあったり、自分の施設とはちがう検診車の構造などをしれてとてもよい機会でした。

・3日間、胃の撮影から読影、病理までがっつり勉強できてよかった。

・今回、胃の撮影の経験が浅い技師が多かったと思うのですが、症例検討会は少し厳しいように感じました。実行委員の方が見本で読んでくださりましたが、すごくさらさらと完璧によまれてハードルがあがった上で、挙手して読まれた方へのつつこみもすごくて、今後人前で読影したくないなと感じてしまう方もいるのではないかと思います。経験がある程度ある方がいたかもしれないですが、“初めての症例検討会”という題ではありますので、司会の方が誘導しながら、基本的な読影の流れをつくってあげてもよかったのではないかと思います。

・2つスクリーンがありましたが、前のスクリーンをポインターで指されても後ろから見えません。その点はよろしくお願い致します。

・普段、胃だけを集中して3日間学ぶ！という機会がなかったのですごくためになりました。施設に帰ってからがんばっていきたいです。

・施設の先輩技師さんたちはすごく技術もあり、皆この研修会受けてきました。今年で終わりは残念です。

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部のこれから

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部

支部運営幹事

山口 和也

この度、日本消化器がん検診学会関東甲信越支部運営幹事を拝命することになりました、ちば県民保健予防財団総合健診センターの山口和也です。ニュースレターの編集委員長も担当しています。

消化器がん検診の長い歴史の中、バリウムを用いた胃集団検診から、大腸がん検診、肝胆膵腎を対象とした腹部超音波検診、胃内視鏡検診といった多様な検診を当学会でも扱わなければならなくなり、いわば大転換期が訪れています。

検診は行政が主導する対策型検診と、国民個人が主体的に受診する任意型検診があります。各々の検査技術の進歩、機械の進歩には目を見張るものがあります。一方、受診者の側も、若年者のピロリ菌感染率の低下、ピロリ菌除菌、肝炎ウイルス対策などが進み、日本人におけるがん発生の特徴が変化しています。この状況の中、検診に対する行政の打ち出す政策の転換・変更によって、国民の意思、好みが変わってくることが十分に想定できます。技術の進歩や、がん発生の特徴を学会の場を通して、会員の皆様に共有していただき、世の中の変化に対応する十分な準備をしていただきたいと考えています。

消化器がん検診は、医師が1人いるだけでは行うことができません。検診に関わる多くの職種、すなわち医師、看護師、技師、事務官のみなさんが協力して、受診者を取り巻く組織が作られて初めて検診が機能します。当学会は検診に関わる多くの職種のみなさんが一同に会し作り上げてきた学会です。この特徴を生かし、さらにこの独自性を発展させていきたいと思います。丁度胃がん検診の方法を見直そうという動きが出つつあります。見直すにしても検診組織がうまく働くように、地域各々の状況を確認しながら計画を立てていく必要があると考えます。組織をうまくコントロールできず破綻してしまうと、受診者が一番混乱してしまいます。

地方支部は、全国支部よりもより受診者に近い臨床現場に役に立つ情報を共有する場であるべきだと思います。関東甲信越地区も広いですので、せめて各都道府県単位で研修会、セミナーが開催されることを目指したいです。

今後ともみなさんのご協力をお願いいたします。

新任支部役員のご挨拶

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部

支部監事

中島 寛隆

(なかしま ひろたか)

この度、関東甲信越支部の監事を務める事になりました早期胃癌検診協会の中島寛隆と申します。これまで一会員として学会に参加してきましたが、ご指名を賜り支部運営の末端を担うことになりました。謹んでご挨拶申し上げます。私の専門は消化管領域で、主に胃がん検診のX線読影と内視鏡検査に従事しています。本邦における胃がん検診は50年間にわたり日本人の胃癌死亡率減少に寄与してきました。しかし、その中で大きな存在を示してきたX線法が岐路に立たされ、現在では検診を運用する中で多くの課題が浮かび上がっています。具体的には胃がん検診方法の多様化とそれらに対する精度管理や有効性の評価、対象者の選定、そして若年者の胃癌罹患率が減少していることへの対応などが挙げられます。私は胃がん検診について新しい方向性を話し合いそして情報を発信するには、日本消化器がん検診学会最大の支部である関東甲信越支部の役割が大変に重要だと考えています。更には他の消化器がん検診においても、本支部の役割は同様だと思っています。微力非才の身ではございますが、支部の運営に少しでもお役に立てるよう全力を尽くす所存です。何卒、御指導と御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

Newsletter100号に寄せて



山梨県厚生連健康管理センター
依田 芳起

消化器検診Newsletter100号発刊おめでとうございます。100号には関東甲信越支部（地方会）40周年を迎えての特集記事の完結編と第75回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会のお知らせ、プログラム、各県単位のセミナーのご案内、ハンズオンライブデモンストレーションなどさまざまな行事を掲載していただきました。学会は400名を超える先生、会員の皆様の出席をいただき盛会裏に終わることが出来ました。多くの方のご支援、ご協力により会が運営されていることを深く感じ、改めて感謝申し上げます。インターネットの普及により情報が得られやすくなった一方で、手元にあった保存版Newsletterを何らかの折に振り返り眺めていますと、当時の苦労や思い出をより鮮明に思い起こさせてくれます。能動的にアクセスしないと得られないインターネット情報は忙しさに見逃してしまうことも起こりがちですが、今まで関心がなかったユーザーへの発信の可能性も秘めています。会員にメールで発刊時期に連絡いただけるとさらに確認しやすくなり活用の幅が広がるのではないかと思います。今後も両者の特性を生かした情報発信源として活用させていただきたいと思います。編集委員の皆様には多忙の中を編集、構成、修正までチェックしていただき学会、セミナーの正確な広報に力を注いでいただき感謝します。特集も超音波委員会に関わってきたものの1人として、その歴史が集約されている記事が多く興味深く読ませていただきました。

1971年に設立された歴史ある関東甲信越地方会の学会、広報誌ともに益々の発展を願い私個人としても協力していきたいと思っています。

第75回 日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部地方会を終えて



山梨県厚生連健康管理センター
依田 芳起

去る平成27年8月29日アピオ甲府に於いて第75回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会を開催させていただきました。平成24年3月の代議員会にて神奈川、茨城の次は山梨とのお話をいただき、藤野雅之（前山梨大学教授）先生に背中を押され、会での承認をいただきました。神奈川で開催された第73回会長、増田英明（三ツ沢ハイタウンクリニック）先生や第74回会長、上甲宏（水戸医師会・上甲医院）先生の地方会に参加し、運営を当センター職員と学ばせていただきました。また歴代の地方会会長を勤められた第72回会長、中島美智子（埼玉医科大学）先生、第67回会長、高田悦雄（獨協医科大学）先生にもアドバイスいただき、先生方の助言が今回の地方会が盛会裏に終えることが出来る原動力になったと考えております。

今年のテーマ『消化器がん検診の精度向上を目指して』を実践していくうえで重要なプログラムを選定させていただいたつもりです。放射線委員会のシンポジウム「精度向上のための理解しやすい読影基準とは」、特別講演、ランチョンセミナーのヘリコバクター・ピロリに関する講演も検診精度に大きく影響する内容でした。腹部超音波カテゴリー分類の使用経験と活用法も今後の超音波検診の精度向上に大きく影響をする内容であり、施設間、技師間格差を無くしていく上で大きな一歩と考えています。更なる浸透を図るべく継続したディスカッションが必要であると思います。保健衛生部会の胃X線検診安全基準についても今後の検診体制を見直す上で重要な内容であり、施設間で共通の基準を共有できるよう学会としても取り組んでいく必要性を感じました。有料参加者394名その他講演者、招待者、スタッフ合計470名の方々に支えていただきました。

今回の地方会の中で議論を尽くすことが出来なかった部分もあるかと思いますが、今後継続していく支部地方会の中でさらに内容の充実した会にさせていただき深めていただければ任を果たせたと感じています。多くの会員の皆様、プログラム委員、協賛、後援を賜りました団体の皆様に御礼申し上げます。今後の消化器がん検診学会の更なる飛躍のため微力ではありますが尽力していきたいと思っております。

超音波スクリーニング研修講演会2015有明のご案内

■会 期：平成27年12月12日(土) 午前9時25分～午後4時40分

*開場・受付開始：8時30分から

■会 場：TOC有明ウエストタワー 20階 コンベンションホール (WEST GOLD20)

東京都江東区有明3-5-7

*埼京線・りんかい線『国際展示場』駅より徒歩3分

*ゆりかもめ『有明』または『国際展示場正門』駅より徒歩4分

*アクセス <http://www.toc-ariake.jp/conv.html>



■参加費：5,000円 事前登録不要

■主 催：特定非営利活動法人 超音波スクリーニングネットワーク (理事長：桑島 章)

■共 催：日本消化器がん検診学会／日本総合健診医学会

■連絡先：超音波スクリーニングネットワーク事務局

E-mail : us-net@pl-tokyo-kenkan.gr.jp

プログラム …USスクリーニングに必要な知識…

- 09 : 25 開会の辞 理事長 桑島 章
- 09 : 30～10 : 15 『腎・膀胱』
講師：関口 隆三（東邦大学医療センター大橋病院）
司会：鳥海 修（関東中央病院）
- 10 : 30～11 : 15 『胆道』
講師：岡庭 信司（飯田市立病院）
司会：合木 祐美子（新赤坂クリニック）
- 11 : 30～12 : 15 『頸部領域…甲状腺・リンパ節他…』
講師：宮川 めぐみ（虎の門病院）
司会：矢島 晴美（東京都予防医学協会）
- 12 : 45～13 : 30 ランチョンセミナー
『基礎と臨床の接点 USスクリーニングに必要な超音波の基礎』
講師：佐々木 博（国際医療福祉大学）
司会：若杉 聡（亀田総合病院）
- 13 : 50～14 : 35 『肝臓』
講師：森 秀明（杏林大学医学部附属病院）
司会：小川 真広（日本大学病院）
- 14 : 50～15 : 35 『乳腺』
講師：何森 亜由美（高松平和病院）
司会：谷田部 眞由美（新赤坂クリニック）
- 15 : 50～16 : 35 『脾臓』
講師：平井 都始子（奈良県立医科大学附属病院）
司会：桑島 章（PL東京健康管理センター）
- 16 : 35 閉会の辞 副理事長 岡庭 信司

*超音波検査士更新5点が付与されます。

*ランチョンセミナーで軽食（800食限定）の用意をしています。

*超音波関連書籍の展示販売を行います。

第8回 ザ・ベストイメージングコンテスト 結果報告

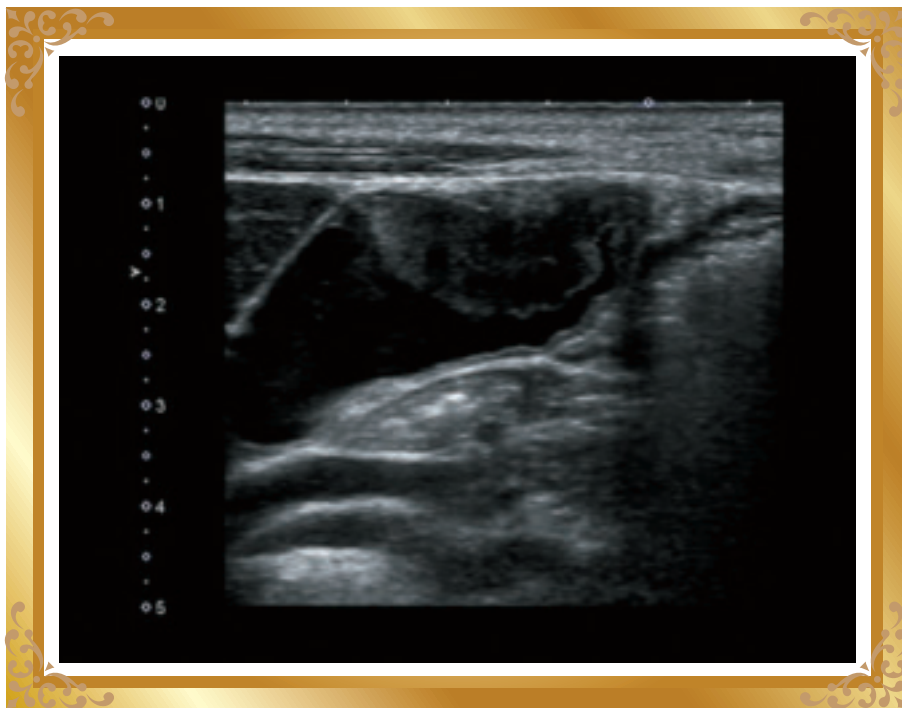
第8回ザ・ベストイメージングコンテストは、平成27年8月29日、依田芳起先生（山梨県厚生連健康管理センター）を大会長とし、第75回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会の超音波研修委員会学術集会において開催され、皆様のご協力のもと盛会裏に終了することができました。

コンテストは今回で8回となりました。これまでに応募いただきました症例も200点を超え、地方会の行事として定着してきた感があります。回を重ねるに従い、装置の調整を的確に行い、超音波の特徴を捉え描出したハイレベルな画像が多く見られるようになりました。今回も、日常の超音波検査の中で遭遇した症例の中から、自慢のベストショット25症例の応募をいただき審査が行われました。検診からの症例でも、画像を拡大したうえで高周波を使用し、病変部が鮮明描出された素晴らしい画像が集まりました。審査は例年と同様、学術集会参加者の投票により選抜された応募作品の中から、専門医の先生方の審査意見も踏まえて活発な討議が行われ、各賞が決定されました。決定しました最優秀賞、優秀賞、特別賞を獲得された皆様のお名前と、画像を以下にご報告いたします。

応募して頂きました皆様および当日審査に参加して頂きました皆様ありがとうございました。御礼申し上げます。次回も多数のご応募よろしくお願い致します。

横浜総合健診センター 中村 稔
早期胃癌健診協会 山本 美穂

最優秀賞



記録者：鳥海 修

所 属：公立学校共済組合関東中央病院

装 置：東芝 Aplio 500

周波数：8.0 MHz

症 例：胆嚢癌

記録者コメント

病変が浅い所にあるので最初は見逃しそうになりました。

優秀賞



記録者：内海 良太
 所 属：亀田総合病院
 装 置：東芝 Aplio 500
 周波数：6.0 MHz
 症 例：胃粘膜下腫瘍（GIST）

記録者コメント

胃角部の類円形低エコー結節像、第4層固有筋層との連続性を認めました。

特別賞



記録者：佐藤 雅之
 所 属：山梨県厚生連健康管理センター
 装 置：アロカ SSD-5500
 周波数：5.0 MHz
 症 例：日本住血吸虫症痕跡

記録者コメント

山梨県ならではの所見です。

取扱い商品 ■ 大腸・CT用検査食 FG-two☆ エスビー食品と共同開発。味とボリュームにこだわった、便性状態の検査食。 ■ 清浄飲料水 PROJECT F. 腸消化性デキストリン（食物繊維として）入り。	遠隔画像診断支援サービス G.I.Lab株式会社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-5 KIMURA BUILDING 7F TEL : 03-5283-0981 検診に特化。胃X線を始め、胸部X線、マンモグラフィー、CT・MRIなど、多様な画像をお取り扱いします。
薬価基準収載 処方箋医薬品 注意・医師等の処方箋により使用すること 【硫酸バリウム製剤】 ■ 上部消化管X線造影剤 バリテスターA240散 バリトゲンSHD エネマスター[®]注腸散 硫酸バリウム散 99.5%「FSK」 ■ 消化管X線造影剤 バリトゲンHD バリトゲンデラックス 【炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤】 バリトゲン[®] ウムブラMD バリエース[®] 発泡顆粒 ■ 胃内滞留性粘液除去剤 バリトゲン[®] 消泡内服液 2% (シメチコン内服液) ■ 腫下剤 ファースル[®]錠 2.5mg (ビコシルファートナトリウム錠)	

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、添付文書をご参照下さい。

伏見製薬株式会社
 ●本社／香川県丸亀市中津町1676 TEL 0877-22-7284 FAX 0877-22-6284
 ●資料請求先 営業企画部／東京都中野区弥生町2-41-5 TEL 03-5328-7801 FAX 03-5328-7802
 仙台営業所／TEL 022-295-5667 東京営業所／TEL 03-5328-7801 名古屋営業所／TEL 052-732-8555
 大阪営業所／TEL 06-6160-2431 中国営業所／TEL 082-509-2431 福岡営業所／TEL 092-413-4107
 金沢オフィス／TEL 076-255-0282

前処置から画像診断支援まで
 人々のすこやかな毎日を願い、
 より正確で
 より安心な診断ができる
 信頼ある製品づくりを。

第11回 千葉県消化管画像づくり研究会開催のご案内

千葉県消化管画像づくり研究会
代表世話人 坂本 弘一

下記のとおり第11回千葉県消化管画像づくり研究会を開催いたします。

当研究会は当時千葉県内に消化管の学術集会がなかったことから、平成17年に県内の放射線技師により結団されました。そして千葉県内の消化管造影精度の底上げを目指し、初心者にもわかりやすく基礎も学べるような研究会を行っています。

千葉県内外問わず、すでに消化管造影に取り組んでいる方はもちろん、これから取り組もうとされている方や興味をお持ちの方はどうぞお気軽にご参加ください。

今回は千葉診療所にて開催いたします。

また研究会終了後に情報交換会（18：30より）を予定しておりますので、そちらもどうぞよろしくお願いいたします。

なおこの研究会は日本消化器がん検診学会認定「胃がん検診専門技師」資格更新単位が2単位付与されます。

記

期 日：平成27年10月31日（土）
15：00～18：00（受付開始14：30）
会 場：一般社団法人 千葉衛生福祉協会
千葉診療所 会議室（7F）
千葉市中央区院内1丁目8-12
参加費：1000円（事前申込不要）

プログラム

- I. メーカー講演 15：00～15：50
『 上部消化管検査におけるリスク管理について 』
伏見製薬株式会社 竹内 修平 先生
- II. 教育講演 16：00～16：50
『 ズバリお話しします！ピロリとABCリスク分類・攻略の極意 』
東京都がん検診センター 水谷 勝 先生
- III. 症例検討会 17：00～18：00

以上

事務局：公益財団法人ちば県民保健予防財団 集検放射線課 いし い たか お 石井 崇雄
Tel：043-246-8602

編集後記

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部は、支部長に入口陽介先生が就任し、支部運営幹事、監事の交代、追加が行われました。挨拶としての原稿を執筆していただき、今号と次号にわたり掲載させていただきます。依田芳起先生には、「Newsletter100号に寄せて」と「第75回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会を終えて」を執筆していただきました。先生方の熱い思いが会員の皆様、ホームページでは全世界の皆様がごらんになれる様になっていますので、世界中に届けば良いなと思っています。75回地方会は山梨県厚生連健康管理センターのスタッフの皆様が、かなり前から一致団結して準備なさって本番に臨んでいたのが良くわかりました。

学会の予算の関係で、各研修委員会の主催、共催するセミナー、研修会が限られた数となっています。「超音波スクリーニング研修講演会2015有明」と「第11回千葉県消化管画像づくり研究会」のご案内を掲載させていただきました。

第75回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会で行われた第8回ザ・ベストイメージングコンテスト結果も掲載させていただきました。通常業務をしながら、写真を選んで応募することのご苦労は良くわかります。今年も期待通りの写真が集まり、ほっとしました。次回の76回地方会でも開かれるでしょうから、腹部超音波検査に従事している皆様は準備しておいて下さい。

私は千葉大学医学部の卒業生です。学生時代講義を受けた医学部本館は、第二次世界大戦中、千葉の空襲で、医学部キャンパスの木造建築が軒並み消失した中、焼けずに残った煉瓦造りの重厚な建築物です。現在の病院ができる前には病院として使われていました。バリウムの二重造影、エタノール注入療法、胆石の土屋分類等の研究、開発の舞台でした。この建物も、耐震性の点で取り壊しの話が出ているそうです。時代の変わり目を色々と感じる今日この頃です。次の時代へ目を向けて皆さんと進んで行きたいです。

公益財団法人ちば県民保健予防財団
総合健診センター消化器科
山口 和也

■編集委員会■

編集委員長 山口 和也

編集委員 小田 丈二 岡田 義和 神宮宇 広明 山本 美穂
石井 崇雄 木村 友子 渡邊 綾子

(非売品)

